

鳥獣被害の現状とこれまでの研究成果 および今後の展望

鳥獣被害の現状は？

本県でのこれまでの鳥獣被害の動向とこれまでの研究成果および今後の展望についてまとめた。

H8年に3億円を超えていた鳥獣類による被害金額は、近年は5千～9千万円にまで減少した。しかし、依然として中山間地域ではイノシシを主体とした被害が問題となっている。

これまでの主な研究成果

- ①出猟記録の分析によって、毎年1～2万頭のイノシシを捕獲しても生息数は減少傾向にはなかった。そこで、被害を軽減できる捕獲方法（農地周辺での加害獣の効率的な捕獲）への転換を提案。
- ②イノシシ捕獲用の簡易型箱罠を開発（当センターHPへのアクセス数は300～600件／月）。
- ③取得した特許を使った容易に草刈りができる電気柵を製品化（（株）サージミヤワキ）。
- ④集落ぐるみのニホンザル対策の成功モデルを構築して普及し、この取り組みが21集落にまで増加。
- ⑤鳥根半島のニホンジカの生息数をモニタリングデータから推定し、捕獲圧を強化して生息数と被害は大きく減少。

今後の問題とその対応策

- ①アライグマの捕獲圧の強化と分布拡大の阻止
 - ・「マップonしまね」による生息情報の一元的管理システムの構築と重点捕獲地域の公開
 - ・錯誤捕獲を回避できる新型わなとアライグマ探索犬などの新技術の開発・導入
- ②中国山地でのニホンジカの捕獲対策の推進
 - ・「マップonしまね」による生息情報の一元的管理システムの構築と重点捕獲地域の抽出
 - ・ICTシステムを使った捕獲装置による労力の省力化と取り逃がしの防止
 - ・広島県と県境市町のシカ対策の広域連携体制の構築
- ③過疎・高齢化の進行による集落ぐるみ対策への労力不足
 - ・ICTシステムを使った捕獲装置による労力の省力化
 - ・集落間の連携などによる労力不足への対応策の構築



今後を目指すべき鳥獣対策は？

- ①集落ぐるみの鳥獣対策の推進
- ②技術支援と費用負担、捕獲者の育成（行政、研究機関）
- ③地域振興（小さな拠点づくり）、農業の方向性との調整・連携
- ④過疎・高齢化社会の到来に合わせた対策（労力不足への対応など）への転換

【研究機関の役割】

- ①省力化を目指した技術開発（捕獲、被害防除）
- ②新たに問題となる鳥獣被害への対応策の確立
- ③人材育成（技術支援の指導者など）



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
鳥根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 鳥根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 金森弘樹・澤田誠吾・小宮将大

問い合わせ先 : 0854-76-3818

E-mail : kanamori-hiroki@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : 益田市でのアライグマの生息数低減への成功モデルの構築（研究期間：H26～29）ほか

